

ブロー液による抗黄色ブドウ球菌作用に関する検討

原田 保¹⁾ 兵 行 義^{1,2)} 石松 昌 己³⁾ 山田 作 夫^{2,4)}

1) 川崎医大・耳鼻咽喉科

2) 川崎医大・微生物

3) 川崎医大・中央検査部微生物検査室

4) 川崎医療福祉大・臨床栄養

耳科領域において難知性外耳道湿疹や外耳道感染症に対してブロー液（酢酸アルミニウム）の有用性が報告され、近年使用頻度が高まっている。そこで我々は、ブロー液の抗菌作用について臨床由来黄色ブドウ球菌20菌株（MRSA10菌株，MSSA10菌株）を対象に、菌液を塗布した寒天平板培地上にブロー液を50 μ l含有したディスクを置き、18時間以上培養後、得られた阻止円の大きさを測定して感受性を求めた。その結果20菌株ともにブロー液に同程度の感受性を示すことが判明した。さらに10%ポビドンヨード（PVP-I）ならびにレボフロキサシン点眼液（LVFX）に対する感受性を求め、3薬剤間における抗菌効果の相違について比較検討したところ、ブロー液はMSSAに対し、PVP-Iと同程度の有効性を示し、MRSAではPVP-IおよびLVFXよりも優れた有効性を示すことが示唆された。